

## 「JR 東日本 Technical Intern Training」実習分野を拡大します！ ～保線分野（鉄道線路のメンテナンス）での技能実習を開始～

- JR 東日本グループは、ESG 経営の一環として国際鉄道人材の育成に取り組んでいます。2019 年 4 月に「JR 東日本 Technical Intern Training」を開講し、ベトナムから実習生を受け入れ、車両メンテナンス分野の実習を行っております。
- 今回、東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二）および株式会社日総建（埼玉県春日部市、代表取締役：山元 伸介）は、ベトナムから 3 名の実習生を受け入れ、新たに保線分野での実習を開始します。鉄道会社と軌道会社が共同で保線分野の実習を実施するのは、当社及び日総建が初の取り組みとなり、鉄道線路メンテナンス業務の一連の流れを習得できます。
- 今後も実習分野や受け入れ対象国を拡大しながら、国際鉄道人材育成に取り組み、アジア地域における鉄道インフラの高度化に貢献していきます。

### 1. 新規開講分野

#### （1）対象者

ベトナム鉄道から 2 名、KAIZEN 吉田スクール（※）から 1 名の合計 3 名

※ベトナムの人材教育会社である ESUHAI 社が運営する、ベトナム・ホーチミンの日本語学校

#### （2）実施スキーム

団体監理型の技能実習制度を活用し、3 年間の実習を行います。職種は、鉄道施設保守整備職種（軌道保守整備作業）です。実習生は当社と雇用契約を締結し、賃金、福利厚生は社員と同等とします。

#### （3）実習内容

鉄道の線路メンテナンス業務の実習を行います。

（常磐線の軌道保守業務全般および TC 型省力化軌道敷設工事を中心に、鉄道線路のメンテナンス業務の実習を行います。）



【軌道保守業務：手作業による軌道整備】

#### （4）実習箇所

金町保線技術センターおよび株式会社日総建に所属し、金町保線技術センターが管轄するエリアで実習を行います。

#### （5）スケジュール

実習生は 2022 年 12 月末に来日し、日本語及び日本文化に関する事前講習を専門機関にて受講後、2023 年 2 月に当社に入社します。



【省力化軌道敷設工事：道床撤去】

## 2. これまでの実施状況

団体監理型の技能実習制度（職種：冷凍空気調和機器施工）を活用し、ベトナムから実習生を受け入れています。冷房装置のメンテナンス業務を中心に、鉄道車両メンテナンスの実習を行っています。

1期生は全課程を終え、実習で学んだことを活かし、母国で活躍しています。現在は2期生・3期生が、冷房装置メンテナンス・鉄道車両メンテナンスの基礎的な技術を習得中です。

	1期生	2期生	3期生
職種	冷凍空気調和機器施工職種		
期間	2019年4月 ～2022年3月	2022年6月 ～2025年5月	2022年7月 ～2025年6月
実施箇所	大宮総合車両センター JR東日本テクノロジー(株)大宮支店	郡山総合車両センター JR東日本テクノロジー(株)郡山支店	大宮総合車両センター JR東日本テクノロジー(株)大宮支店
対象者	ベトナム鉄道：5名 KAIZEN吉田スクール：6名	ベトナム鉄道：1名 KAIZEN吉田スクール：1名	ベトナム鉄道：2名 KAIZEN吉田スクール：4名



【配線実習の様子（2期生）】



【配管加工実習の様子（3期生）】

(参考)

■ 株式会社日総建

株式会社日総建は、鉄道線路の工事を専門とし、常磐線・中央線の TC 型省力化軌道敷設工事・修繕工事・改良工事を行っています。これらの工事は、JR 東日本グループで鉄道線路の工事を担当するユニオン建設株式会社より請け負って工事を行っています。新しい鉄道線路工事の実現に向け、道床掘削機や軌陸バックホウの活用など機械化施工を積極的に導入することで、よりよい線路づくりの在り方を追求しています。

■ TC 型省力化軌道

軌道メンテナンスの作業量低減を目的に、JR 東日本が開発した軌道です。通常のバラスト軌道と比べ、まくらぎを大型化して列車荷重の分散を図るとともに、まくらぎ下のバラストをセメント系充填材で固定化する構造となっています。1998 年から敷設され、山手線をはじめとした首都圏の線区で導入されています。



【省力化軌道敷設後の様子】

■ 今回の実施スキーム図

